


みどりの 

21世紀 地球を、地域を、生活を、
持続可能な豊かさに

ニュースレター

6

2006
No.157

特集：持続可能で豊かな社会を考えよう
— 2006年プロジェクトも公開！ —



特定非営利活動法人

環境市民

Citizens Environmental Foundation - since 1992 -
<http://www.kankyoshimin.org>

¥100

みどりの ニュースレター



No.157

2006年 6月号

Citizens Environmental Foundation

コレため! コレ、
ためしてみました。

毎月エコロジカルなライフスタイル・グッズを
スタッフが体をはって実践レポートします!



写真提供：上田正幸さん

コレため! File no. 11

自然の恵みを再利用 梅雨の季節に大活躍! の雨水タンク

文/ニュースレター編集部
久保 友美

6月は、梅雨の季節。雨の日が続くこともしばしばです。雨水といえば、そのまま川へ流れていってしまうことがほとんどで、もったいない限り。そこでおすすめしたいのが雨水タンク。

雨水タンクは、樋などを使って雨水を貯蔵するタンクのことをいいます。雨水だと虫がわくのでは? と不安になりますが、きちんと密閉していればそんな心配も無用。利用している人に聞くと、掃除や植物への水やり、打ち水など用途はいろいろ! 「これはどこで手に入るの?」とご近所や通りがかりの人に尋ねられることもたびたび。雨水タンクを設置することで、周囲の人々が雨水について再考するための啓発的な効果もあるようです。

私も初めて雨水タンクで水やりをしてみました。予想よりキレイな水にちょっとした驚き! 植物にとっては水道水より自然に近い雨水の方がイキイキすることでしょう。日本では1日の水の平均使用量350リットル中、約330リットルが生活用水! 生活用水に雨水を利用することで水資源を有効活用できるのではないのでしょうか?

現在では、公共施設をはじめとして設置場所が増加中。家庭用の雨水タンクは200~250リットル(材質はポリエステル系)で約3万5千~5万円。ステンレス製の場合は150リットルで10万円。手作りも可能。これからの季節にぴったりの雨水タンク。実際に設置してみることで、いつもとは違った梅雨の季節を過ごすことができるかもしれません。



今月の表紙……

アメリカの著名アーティスト、アレックス・ボーイズさんが環境市民をイメージしてつくってくださったモチーフ(1994年)。カットは余すことなく使われ、無駄のない自然を表し、赤や緑は鮮やかな自然の移ろいを示している(実際はカラーです)。人の手は自然の移ろいの中に描かれ、人と自然が調和することを意味している。持続可能な社会とはこのようなものかもしれない。

CONTENTS

コレため!

自然の恵みを再利用 梅雨の季節に大活躍! の雨水タンク…02

**特集：持続可能で豊かな社会を考えよう
— 2006年プロジェクトも公開! —**

…03-07

とれたて! 環境市民 …08

イベントカレンダー

旬のぶちメモ

講演のご案内

…08

みんなでエコろう! 行事案内…09-11

地球のなかま…12

第11回 『潮間帯』の昆虫は面白い!

隔月コラム **ミュンスター便り**…13

vol.6 ミュンスターの国際協力 ~ミュンスター・コーヒー~

みんな集まれ! わいわいひろば…14

6月のテーマ:梅雨のエコ・楽しい過ごし方

1/ 環境市民…15

西村 仁志さん

今月のありがとう…16

新入会員インタビュー・新入会員・寄付他

特集：持続可能で豊かな社会を考えよう — 2006年プロジェクトも公開！ —

環境市民が目指す「持続可能で豊かな社会」を実現するために、環境市民でプロジェクトをすすめている人たちはどんな想いを持って活動しているのでしょうか。そこで「持続可能な社会についてわいわい話そう会」と題して、持続可能な社会像を話し合うためのワークショップを開催しました。本号ではここで出された意見を中心に、2006年度のプロジェクトも一挙公開。多様な想い、価値観を受け入れながら活動をすすめる環境市民の魅力をお伝えします。

環境市民代表が語る「持続可能な社会への夢と希望」

「持続可能で豊かな社会・生活」の実現を目指し、活動を続けてきた環境市民。

1992年、50人から歩み始めた本会は、今では会員750人となり、全国的にその存在を知られるまでに成長しました。近年では、数々の賞を受賞。実施するプロジェクトは社会からも注目を集め、その影響力も強まっています。そんな環境市民の代表に、それぞれの「持続可能な社会への夢と希望」を語ってもらいました。



すぎもと
松本 育生

92年にリオで開催された国連の「地球サミット」以来、人類の最大の課題として世界中で認識されている「持続可能な社会」。ただ、持続可能な社会とは何か、という説明はなかなか難しい。もっともよく使われる説明の一つが、環境、経済、

社会（的公正）*の3要素が全て良好な状態、もしくは良好になっていく状態、である。ただ、日本でこの3要素とも良い社会と言うと、多くの人は「そんなの無理だ」「夢物語」だという反応を示す。理由は簡単、現実の日本社会は3要素のどれも良い状態もしくは良い方向に行っていると考えにくい。まして3要素ともとなると……、である。

しかし、人間にとって確かにこの3要素のどれか一つでも悪いと、住みにくい社会となるし、下手をすれば生存の問題にさえなりかねない。3要素とも良い社会とはほんとうに夢なのだろうか。私は夢ではない、実現すべき社会の将来像だと確信している。なぜ、そんな確信ができるのかと言えば、ひとつには、3要素がかなりうまくいっている様々な地域社会を知っているからである。例えば「先進国」的なモデルとしては、スウェーデン、デンマークの諸自治体やドイツの環境首都になった自治体である。それらの自治体は完全ではないが、日本の地域社会に較べると、格段に3要素とも良好でありかつより良好になるべく努力している**。

確信できるもう一つの理由は、これまでの環境市民の活動をとおして持続可能な社会を築くための要件がある程度ではあるがつかめているからである。紙幅の関係で機会を改めて詳述したいが、人創りをすすめること、パートナーシップ、環境・経済・社会をばらばらでなくトータルに捉えること、誰でもわかる率先事例を作り出すこと、アジェンダ21などの戦略計画、行政・施策の総合化、わかりやすい将来像の7要素である。そして、最後の理由は、環境首都コンテストやパートナーシップ事業を通して、日本の地域社会においても、持続可能で豊かな社会づくりに真剣に取り組んでいる多様な自治体、NGO、人々に出会っているからである。

*社会（的公正）：福祉、人権、社会保障などを総合した概念。

**具体的に詳しく知りたい方は6月から始まる連続セミナー「日本の環境首都を誕生させよう！ ヨーロッパに学ぶ 環境のまちづくり」にご参加を。（参照9頁）



塚本 圭一

私はいま、京都御苑・宗像神社に毎年営巣するアオバズクの食性を野鳥研究者である環境市民・会員の西臺律子さんと調査している。青葉の頃にやってくるズク（フクロウ）は行動範囲3～400mほどのところからいろいろの生きものを捕らえてくる。3年間のデータと2006年のデータを解析して報告する予定である。この調査には大きく二つの意味がある。一つはアオバズクの食性であり、もう一つは御苑とその近傍の昆虫類、その他の現況調査である。例えば、2005年の7月7日にはソバズメという蛾をアオバズクは食物としているし、夏休み頃はアブラゼミとクマゼミをよく食べている。

そして、私としてはこの調査を「生物多様性社会」とか「共生・環境都市」の基盤になると考える。野鳥・昆虫・ヒト・植物・バクテリア……と網目（複雑系）の世界＝生物多様性社会、を理解し、啓蒙の手段が野外での調査だと考える。

世間では環境問題、環境教育、環境まちづくりなどと言うが、そのほとんどは人間＝ヒトを対象とし、生きものたちのことを考えていない。生物多様性社会とは地球上すべてのいのちを考えて初めて口に出せる。私はこの数年間愛犬トトロと同居して初めて「共生」という言葉の意味が理解できた。動物の心を知るといふ努力とヒトの思考を伝える努力は、トトロも理解しようとしていると思う。このことは、私が深い森のなかで昆虫類と対峙するよりも難しいが、そうでなければやはり、共生は神話であっただろう。

最近の日本列島には問題が多すぎる。傷害、殺人、詐欺、嘘つき……と、「不審者を見たら、大声、110番」と、各家庭の入り口に貼られている。この不審者という表現は「人を見たら悪人と思え」という思想でもある。

学力が低下すれば教育基本法を改正するとか、犯罪には刑を重くするとか、単純な発想が多い。

私は「知の風土の再生」を提案している。それは、イングランドのアレンの言う「文化的（精神的）風土」即ち、「初心者が立派な成果を得るために、まず、第一に不可欠なのは、適切な知的風土である」とする。私は教育以前の問題として、豊かな自然、愛のあるまち、多くの生きものたちが棲む土地を夢みるのである。そのためには生きものたちの目や感性で世の中＝環境を見ていきたい。

持続可能で豊かな社会って どんな社会？



環境市民はビジョンとして「持続可能で豊かな社会・生活」を掲げているのですが、「持続可能で豊かな社会って何？」という質問をよく受けます。もとになっている「持続可能な発展／開発 (Sustainable Development)」は、環境や社会、経済、文化、資源、世代間の公平といった様々な側面において「将来世代のニーズを損なうことなく現在世代のニーズを満たすこと」を意味し、持続可能な社会はこれらが満たされた社会ということができます。ただこれには多様な受け取り方、解釈があります。そこで「持続可能な社会についてわいわい話そう会」と題して、持続可能な社会像を話し合うためのワークショップを開催しました。環境市民で活動している人たちはどんな社会像を持ち、2006年度はどんなプロジェクトをしようとしているのかについてお伝えします。

※ワークショップは4月23日(日)午後2時から約3時間、京都市内にある修学院荘で行いました。(以下敬称略)

ミッション1 豊かなライフスタイルを創造する

持続可能な社会をつくるためには、暮らしのあり方を変えていくことも重要です。環境市民では設立以来、環境に配慮した消費行動をする「グリーンコンシューマー」活動を行ったり、エコロジカルな住まいづくりなどを行ってきました。今回はその中でも、仕事のあり方の話題が中心になりました。

◆仕事のあり方



春山 文枝
(環境市民理事)

有川●日頃のライフスタイルを通して、「エコロジカルなライフスタイル」を考えたときに課題と思っていることはありますか？

春山●グリーンコンシューマーとして買い物をしたり、畑をしたいなど、豊かなライフスタイルのためにやりたいことはあるけれど、実際は仕事で忙しい人が多い。理想のライフスタイルのためには働

き方を考える必要があるのではないのでしょうか。

井上●今は就職をして、勤務することに多くの時間を費やしてしまう。そんな仕事のあり方に問題があるのではないかと思います。最近の若い人たちの就職感はどうなのでしょう。

西田●自分が決めた会社で一生働



有川 真理子
(ニュースレター
編集部)

く考えの人は数少ないと思います。転職をしたり、大学院に戻ったり、外国に行ったりする人もいますね。

春山●今は(働くスタイルとして)組織に所属するのが普通になっています。働くイメージが生活にもっと密着していけばライフスタイルが変わるのではないのでしょうか。

山田●昔、人は企業の財産だったけれども、今は道具にされている。人も大量消費されているんでしょう。

◆エコロジカルな社会は人権への配慮も含まれる

有川●最近、日本は「格差社会」ともいわれています。

井上●「ヒルズ族」とよばれる人が誕生したり。

今村●株を売ること生活をしているヒルズ族はある意味エコロジーではないのでしょうか？

春山●株のやりとりはどこからお金を吸い上げているのかということ考えると、一概にエコロジーとはいえないかもしれません。

堀●エコロジカルなライフスタイルというのは、単に「モノ」に関係することではありません。江戸時代がエコロジーな社会だと言う人がいますが、私は、人権が認められていなければエコロジーな社会とは絶対に思わない。同じように単に株の売買がモノの消費を伴わないからエコロジーとはいいがたいでしょう。ただ、今後はSRI(社会的責任投資)のようなものがお金の流れを変えていくかもしれません。

◆これからのNGOの役割

堀●「ものには値段がある」といいます。今はとにかく安ければいい、という風潮が強い。こうなると、環境や



今村 弘通
(自転車チーム
チャリ民)

労働、人権への配慮はされにくくなる。私たちができるのは、(その製品ができる) 仕組みを見せることではないかと思えます。安いものがあれば、安い理由を、公正な貿易によるものは、それがはっきりとわかるような仕組みをつくる、とか。

有川●最近 CSR (企業の社会的責任) への関心が高まっていますが、企業や法人 (Corporate) を意味する C をとって、各人に SR (社会的責任) があるとも言われていますね。

春山●ただ組織にいて一人で変わるのには難しい。このように議論できる場があればいいですね。最近、お金より、情報交換をしたり、困っているときに支えてくれる人がいるといった人間関係の方がありがたいような気がします。その意味では、環境市民のような活動が重要になるのではないのでしょうか。



山田 岳
(自然住宅
研究会)

山田● NGO は、持続可能な社会・経済の創造、地域の雇用の創出という点で、今後重要になってくると思います。草刈十字軍^{注1}という団体では、都会で農業に関心のある人を集めて過疎地に行き、山林の下草を刈るなど農林業を手伝ってもらっているそうです。こうした場では、専門家や行政の間に入ってコーディネートをする人が必要

になってきます。ここは NGO や NPO の役割になってくるのではないのでしょうか。

ミッション 2

エコロジーな次世代を育む

環境市民では、未来を生きる子どもたちを対象に、環境について共に学び合う「環境共育」を行ってきました。具体的には、地球温暖化など多様な環境問題について伝える「エコファイターショー」の企画実施や、小・中学校への出張授業、またこういったプログラムを実施する大人に対しての研修などを行っています。今回は、現在の活動の課題から、強み、そして今後の果たすべき役割について話をしました。

◆どうやって人の意識、学校教育を変えていくか

風岡●環境市民では環境共育活動を行う SKIP チームの他にも小学校の環境共育プログラムを企画運営していますが何か課題はありますか？



風岡 宗人
(ニュースレター
編集部)

西田●SKIP はエコファイターショーなどをやっているのですが、観客 (市民) が意識の変化から態度の変化に変わっているのかが分からず、どうしたら態度の変化につなげてい

けるのか、ということが一番の課題です。

井上●そういう思いがあるのであれば、態度の変化につながったかどうかを確かめるために学校の学習につなげていくプログラムをつくる必要があるのでは？



西田 愛
(環境共育チーム
SKIP)

西田●そうですね。ただ今は定まった活動フィールドがなく、エコファイターショーなども出演依頼を受けて開催しているという状況です。

内田●環境市民の環境共育は、もっとこちらからしかけていく必要があるのではないのでしょうか。学校教育を変えていこうと思ったら、学校の授業を担うだけでは限界があります。PTA など学校以外の場所で何ができるのかを考え、外からはたらきかけていくアプローチがいいのではないかと思います。

◆環境市民の環境共育の強み「テーマの多様性」

堀●環境共育というと自然をテーマとするものが多いのですが、環境市民では、まちづくりや暮らしのことなど多くのテーマに対応できる強みがあります。いわゆる「持続可能な開発のための教育」です。昔から環境市民では、環境共育を「未来をつくる教育」といっていました。つまり、次の社会をつくっていく人たちを育てるための教育、ですね。



千葉 有紀子
(ニュースレター
編集部)

千葉●確かに環境市民のいろんなプロジェクトを組み合わせると面白いかなと思いますね。

内田●環境市民は、学校で教えきれないことを教えることができます。例えば、学校では、食べものの原料がどこからきているのかということまではしますが、環境市民であれば、その結果、環境や社会、経済にどういう影響を与えるのかということをお教えることができます。

◆環境市民の活動自体が環境共育!?

風岡●春山さんは大学で教えておられてどうですか？

春山●学生がなぜ経済とか社会の話をしていないのかという話をしていたら、ある学生が「あきらめているんですよ。そんなことを考えること自体あほらしくなっている」といっていたんですね。



堀 孝弘
(環境市民
事務局長)

堀●60年代安保闘争の後、当時の産業界が学んだことは、労組の壊柔、学生運動を骨抜きにすることでした。それは成功したけど、その代わり次の世代をつくる人を育てられなくなった。これが現状

注1：1974年、除草剤の散布が森林生態系に悪影響を与えるとして、富山県の植林地で下草刈りを行ったのがはじまり。国や行政の支援をうけながら、活動は全国に広がる。毎年80から90人が現在でも参加している。

につながっているのかもしれませんが。

春山●私は環境市民での活動自体が、いろいろな意見をだせる人をつくっているような気がします。

風岡●確かに、継続的に来ている人が1年後には別人のようにいろいろな意見を言うようになっているということもあります。

井上●私が関わっている豊中でのESD（持続可能な開発のための教育）も市民が意見を表明したり、参加したりという土壌をつくっていくというプロセスを、教育としてとらえて取り組んでいます。

ミッション3 エコシティーを創る

環境市民は、生活と経済活動の基盤である地域が持続可能で豊かな社会に変えることが、日本社会の変革、ひいては世界的な環境問題の解決にもつながると考え、「エコシティーを創る」をミッションとして掲げています。このミッションを達成するため、日本の環境首都コンテストの実施、京都自転車マップの発行、自治体、事業者との積極的なパートナーシップ活動を通して、市民参画でエコシティーづくりに取り組んでいます。エコシティーとは、その実現のために必要なことは何か。今後環境NGOとしてすすむべき方向とその手法について話し合いました。

◆「エコシティー」のイメージ

寺西●持続可能な地域社会、エコシティーのイメージはどんなものでしょうか。

春山●漠然としていますが、いわゆる「環境」だけでなく、経済や社会的公正も含めてそこに住む人が住みやすいまち、かな。

山田●自治体職員と話していると、私たちが考えている持続可能な社会像とはずれがあると感じることがあります。環境省の推進する「循環型社会」は物質循環だけに焦点を当てていて、自治体もそれに近い考え。

◆エコシティーをどうやって創っていくか

寺西●エコシティーはどうすれば創っていけるのでしょうか。



井上 和彦
（日本のフライブルクを創ろうプロジェクト）

井上●行政は税金を使って市民のためにやっていると言うけど、その正当性の根拠はもちろん「市民の声」。その意味で、いかに市民の声を吸い上げていくのが重要でしょう。

千葉●日本の場合、「赤字だから廃止する」という効率一辺倒の議論が多い。これはおかしいと思う。

井上●問題は、みんながそう思っ



寺西 孝一郎
（ニュースレター編集部）

ているのになぜそこにつながらないのかということ。多様な価値観をもったNPO/NGOがそれらの問題に正面から取り組み、自治体もそれを受け入れながらやる。自治体がそれをすべて集約できなければ代替りの主体が行う。議員の利益誘導ではなく、多様な価値観が大切にされる仕組みづくりが必要だと感じています。しかし、選挙の投票率の低さをみても、声を聞きたい人の大多数は声を発してくれない。社会は「もの申さない人の声」を聞かない方向ですすんでいく……。



袖岡 信明
（環境市民会員／元エコファーム）

袖岡●「声なき声」を聞きとり、発信していくリーダー層の育成が重要になってきますね。

寺西●リーダー層の育成と自治体への働きかけは環境市民のメインの活動と言えますね。

堀●ごみの分別の普及にしても、自治体と市民がそのプロセスを共有してきたからできたことです。こうしたプロセスに参加できる人

を育て、活躍できる仕組みをつくっていくこと。これが今後も環境市民としてすべきことなのではないでしょうか。10年前と比べれば、この10年随分変わりました。漠然とですが、これから10年先が楽しみです。

◆あきらめずに持続的な活動を

堀●活動の手法として、提言をする団体はたくさんあっても、実践までしている団体は環境市民以外あまりないと思う。環境市民は講座などで地域力や市民力を高めてきましたし、日本の環境首都コンテストでは、自治体のできていないところを責めるのではなく、「やればできる」と勇気を与えながら変えていく手法をとってきました。

井上●エコシティー創りに果たす行政の力は非常に大きい。その行政に働きかける手段として環境首都コンテストをはじめました。これまで5回実施して、複数の自治体首長が「環境首都を目指す」と言ってくれるようになったことは、ひとつの成果だと認識しています。しかし、実際に自治体が変わったかと聞かれれば、見てすぐ変わったとわかるような変化はまだ表れていないというのが正直なところ。

内田●そんなに急に変わるものではないと思いますよ。



内田 香奈
（環境市民事務局員）

京都では5世代住まないとその土地の人ではないと言われます。なんとなく親の姿を見ながら、その土地の人として暮らす人になっていく。その土地なりの個性があって、それが変わっていくにも相当の時間がかかるでしょう。

寺西●少しずつでもあきらめずに前に進んでいくことが大切ですね。ありがとうございました。

ミッション4 経済のグリーン化

CSR（企業の社会的責任）への関心の高まりや環境マネジメントシステムの発展などにより、経済のグリーン化は進んできましたが、持続可能性には未だ課題が残ります。環境市民では、持続可能型環境経営セミナー（2004、2005年度各5回）の開催や、企業とのパートナーシップ活動を行ってきました。今後、環境市民の社会における役割をご紹介します。

持続可能な社会は自然の豊かさや都市における歴史的・文化的ストックを次世代に継承していくことのできる社会である。このことはエコロジカルな持続可能性や環境の持続可能性と呼ばれる。同時に持続可能な社会はグローバルゼーションによって外生的につくりだされる失業や産業空洞化などの困難や圧力に負けない経済の内発的力を持つ社会でもある。このことを経済的持続可能性という。この他にも、社会的持続可能性、文化的持続可能性、空間的持続可能性等持続可能な社会にはいくつかの切り口がある。

ここでの課題は、環境的持続可能性と経済的持続可能性はいかにすれば統合可能で、統合が実現する経済ビジョンのイメージとそこへ至る道筋を明らかにすることであろう。経済のグリーン化はこのことを考える際のキーワードである。

環境は価値物であるが価格がつかないために、金銭的評価に基づく経済行為では配慮されてこなかった。そうした従来の経済に対して、経済のグリーン化とは生産、流通、投資、消費といった経済行為、さらに金融活動や財政活動、さらに広義には都市づくりや国土計画にも環境への配慮を組み入れていくことである。そのことを通じて環境的にももちろんのこと経済的にも持続可能性を高めるのである。

環境市民は各主体がそれぞれ行う経済行為に環境配慮を組み入れるようパートナーシップ的活動で推進するとともに、そうした経済のグリーン化が個々の主体のレベルでもすすみややすくなる社会の仕組み—例えば環境税制改革、環境ラベル等—づくりにも貢献していかなければならない。



（環境市民 理事／
京都大学大学院経済学研究科
及び地球環境学堂教授 植田 和弘）

「あーだ、こーだ」いいながら 生活者の視点で実現する持続可能な社会 ～ わいわい話そう会を終えて ～

本当によく話をした刺激的な午後でした。普段環境市民の中で別々の活動をしている人たちが集まって、それぞれの考えを率直に出し合いました。正直言うと、皆の意見が合う時より、むしろ、「私はそうは考えない」などと、違う意見を出し合う場面が度々あったことが印象的でした。それって、ステキなことだと思うのです。みんなが同じ考えを持っていたら、環境市民って似たようなことを考えている人たちが集まっている、発想が広がりにくい団体だと思ったかもしれません。

持続可能な社会を創っていきたいという点でつながっているけど、「持続可能な社会」の具体的なイメージは人それぞれ。そういう人たちが集まって、「あーだ、こーだ」と言い

ミッション5 世界の人々や NGO と協働する

持続可能な社会を創っていくためには、国内だけではなく世界の人々と協働していくことが大切です。特に、温暖化による環境変化で大きな被害が出ている開発途上国との協働は緊急の課題です。環境市民は、インド洋に浮かぶ、平均標高 1.5m の環礁の島しょ国、モルディブとともにミッション実現に向けて動き始めます。



モルディブ プロジェクト モルディブの人々とともに 地球温暖化を防ごう

日本の様々な環境 NGO 等とネットワークをつくり、また旅行業、太陽光発電器メーカー、CSR 活動に熱心な事業者等との協働体制を築き、多様な仕組みをもつモルディブ基金を設けます。モルディブ政府関係者、モルディブ政府、環境団体と協力関係を構築し、基金をもとに住民が居住する約 200 島に順次太陽光発電装置及び太陽熱温水器を設置し、島内の公共的施設を中心に電力を供給します。またメンテナンスの技術供与を行い、住民が維持管理をできるようにします。

併せて、海水温の異常高温化現象により大きな被害を受けたサンゴ礁生態系の回復のための実践的な調査研究及び提言を行います。さらに旅行者に対してエコツーリズムをすすめる仕組みをつくっていきます。

（予定）

2006年4月～2006年12月：活動のフレーム構成、他団体、企業への協力依頼、モルディブ政府及びモルディブ内での協力機関への依頼、調整

2006年12月～：モルディブ基金運営開始

2007年4月以降：本格活動開始、以降、約10年間を活動期間として予定

（代表理事 杵本 育生）

ながら自分の頭で考える過程にこそ、「持続可能な社会」のヒントがあるのかもしれませんが。答えのある「持続可能な社会」なんて、本当の「持続可能な社会」ではないと思うのです。政府や行政や企業などが考えている「持続可能な社会」を素直に信じるなんて、もってのほか！ 私たちはどのように生活したいのか、どこに問題があるのか、どうやったらその社会に近づいていけるのか……といったことをバックグラウンドもさまざまな人たちが頭を寄せ合って考える。一人で悶々と考えてもなかなか考えは膨らまないし、社会への取り組みにつながりにくいです。そういう意味では、バックグラウンドは違うけど「市民＝生活者」の視点で考え実践する人たちが集まる NGO で意見交換ができることこそ、「持続可能な社会」の種なのではないかと思った1日でした。

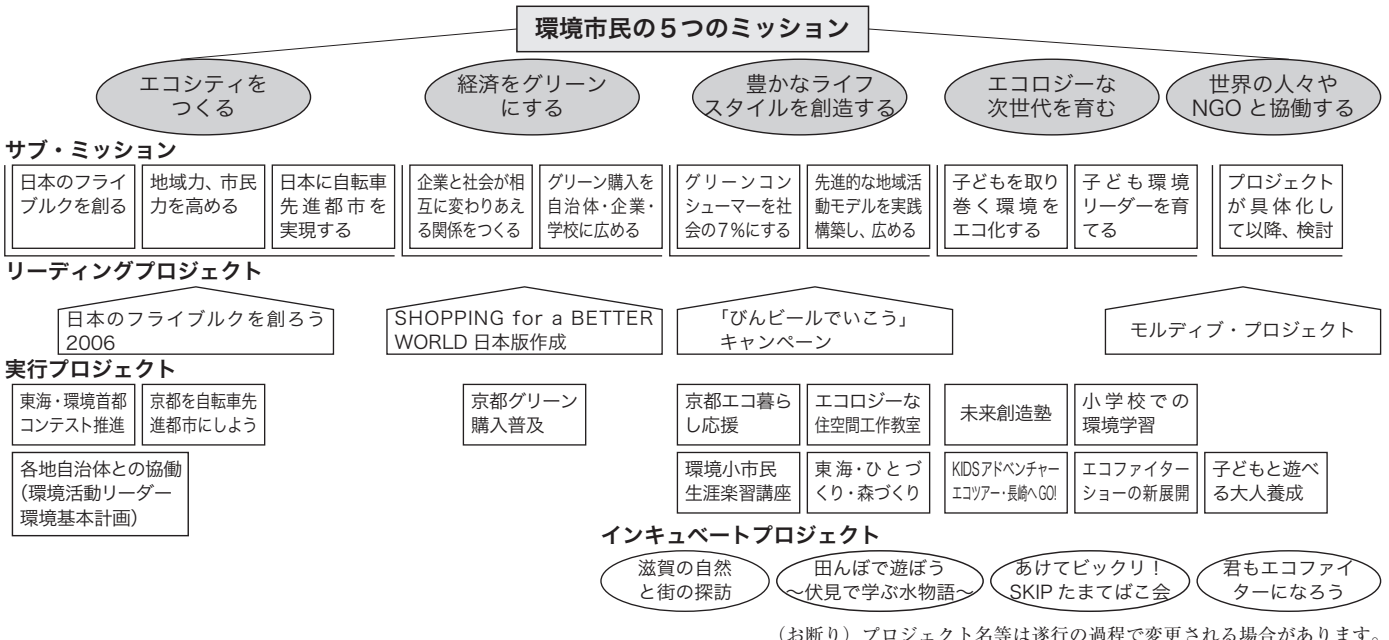
ぜひまたこういった機会を持ちたいですね。そのときは、皆さんもぜひご参加ください。（環境市民理事 春山 文枝）

今年度も環境市民はガンバります！

環境市民の2006年度プロジェクト (下図)

今年度から、プロジェクトを、(1) 社会を変えていく大きな力とするために重点的に取り組むプロジェクト、(2) 社会を変えていく力をつけることをめざして啓発活動、調査・研究に取り組む「実行プロジェクト」、(3) 中長期的な視野で自らの力をつけていく準備段階であるインキュベートプロジェクト、の3つの段階に明確化しました。これにより組織としての力を特定分野に注力する推進力となるとともに、社会にもアピールしやすくなります。

これらのプロジェクトは多くのボランティアが主体的に動かしており、どなたでも参加できます。持続可能で豊かな社会・生活を実現するため、ぜひあなたの力をお貸しください。



(お断り) プロジェクト名等は遂行の過程で変更される場合があります。



～環境市民の今、そしてこれからの活動をお知らせします～

とれたて! 環境市民



環境市民を知ろう! 春のボランティア説明会を開催

去る4月20日、ひと・まち交流館 京都において、「環境市民 春のボランティア説明会」(第1回)が行われた。この春から環境市民でボランティアをしたい人、ボランティアに関心がある人を対象に、環境市民でボランティアを始めたい人を募ることを目的に開催された。主な内容は、環境市民、各プロジェクトの紹介、ボランティアの体験談、ゲーム、そして各プロジェクトに分かれたブースでの懇談会。

まずは、事務局員の内田香奈から環境市民が目指していること、環境市民の活動内容を紹介。環境市民を皆さんにしっかり知っていただくためにはとても大事なお話。その後、各プロジェクトのメンバーから、環境市民でボランティアを始めたいきさつ、ボランティアをしてよかったことなど、体験談をお話した。プロジェクトが違えば、メンバーの年齢層や職業も様々。ボランティアスタッフの中でも、「他のプロジェクトには、こんな素敵の方がいたのか」と興味津々! 環境市民は、活動内容も多種多様。いろいろな人が活動しているのだ。

その後、アイスブレイクにより場は笑いで包まれ、本日のメインである、各プロジェクトごとの活動紹介が行われた。ボランティア説明会に来られた方は、ボランティアに関心がある方がほとんど! 各プロジェクトからの活動紹介を、真剣に聞いている姿がうかがえた。ボランティアスタッフの話にも熱が入り、話が尽きない中、第1回目のボランティア説明会は終了した。環境市民でなくとも、今回の説明会への参加が、皆さんがどこかでボランティアを始める足がかりになることを望む次第である。もちろん、今回の説明会参加者と、環境市民と一緒に活動ができることを心待ちにしている。

(文/日本のフライブルクを創ろうプロジェクト 荒川 萌)





ミーティング&イベントカレンダー

1日(木)	東海 環境市民nagoya cafe 午後7:00から9:00(P11) ニュースレター編集部 午後6:30から
4日(日)	水チーム 田植え(P10)●
7日(水)	連続セミナー ヨーロッパに学ぶ 環境のまちづくり(第1回) (P9)
8日(木)	ニュースレター編集部 編集日 午後6:30から 自転車チーム ちゃり民 午後7:00から
9日(金)	電子かわら版 午後7:00から
10日(土)	第1回未来創造塾 午後1:00から4:30(P10)
11日(日)	滋賀 田植えの体験 午前9:30から午後3:00(P11)
13日(火)	ガイドチーム 午後7:00から 東海 日本の環境首都コンテスト先進事例DVD上映会 午後6:30から9:00(P10)

※グループ/プロジェクト名のみはミーティングです。
※「●」は京都事務局までお問い合わせ下さい。

6月^{'06}

14日(水)	連続セミナー ヨーロッパに学ぶ 環境のまちづくり(第2回) (P9)
15日(木)	日本のフライブルクを創るうプロジェクト 午後7:00から
18日(日)	通常社員総会 午後1:00から4:00(P10)
19日(月)	みつたまプロジェクト 午後7:00から9:00
21日(水)	東海 ぼっとらっくばーてい 午後7:00から9:00(P11)
22日(木)	ニュースレター編集部 校正日●
24日(土)	連続セミナー ヨーロッパに学ぶ 環境のまちづくり(第3回) (P9)
27日(火)	自転車チーム ちゃり民 バリアフリーの街を創るう 午後7:00から9:00(P10)
28日(水)	連続セミナー ヨーロッパに学ぶ 環境のまちづくり(第4回) (P9)
29日(木)	ニュースレター発送日 午後1:00から

旬のメモ

ふち

● VOL・12 ● 梅の香りが漂う季節

あなたの心に季節の窓を。
旬の話題と暮らし方のヒントを
お届けします。

雨の多いこの季節、甘い匂いを漂わせて梅が収穫の時期を迎えます。わが家にも、親戚から獲れたてのおいしい梅が届いて母が梅酒の準備をはじめます。南高梅という種類が使われることが多く、まだ熟れてない青梅は梅酒に、熟れた実は梅干に使われます。梅干で気になるのは塩分量。市販のものは塩分が多い

ですが、梅干はどこの家庭でも作ることができるので自分の好みに合わせて減塩梅干を作って体を思いやってみては。主な栄養素はクエン酸。疲労回復に効果的で、血液浄化や老化を抑制する作用も。肌荒れ改善で美容効果も注目されています。

(文/ニュースレター編集部 安江 晃子)

講演の案内

全国に講演に出かけています。お近くに来た際にはご参加ください。

- 22日(木) 和泉市 / 地球温暖化
- 29日(木) 和泉市 / グリーンコンシューマー

※下記の講座にも講師を派遣しています。(一般参加はできません) 詳しくは京都事務局へお問合せください。

- 1日(木) 交野市 / 職員研修「地球温暖化」
- 12日(月) 神戸市 / 「私たちの暮らしと環境問題」

みんなでエコろう! 行事案内

問合せ・申込み

環境市民

<http://www.kankyoshimin.org>

【TEL】 075-211-3521
【FAX】 075-211-3531
【IP 電話】 050-3581-7492
【E-mail】 life@kankyoshimin.org

連続セミナー(全5回)「日本の環境首都」を誕生させよう! ヨーロッパに学ぶ 環境のまちづくり

2001年度より毎年開催している「日本の環境首都コンテスト」も第6回目を迎えました。今回の連続セミナーでは、先進的なヨーロッパの環境政策を通して日本の自治体にも応用できる点を学び、またその中で本コンテストの意義や果たすべき役割を皆さんと共有したいと思います。細かい知識はいりません。みなさんのご参加をお待ちしております!

【第1回】6月7日(水) 午後6:30から9:00

「持続可能な社会を目指して

～『環境首都コンテスト』発祥の地 ドイツのまちから～」

講師: 環境市民 代表理事 枚本 育生 氏

【第2回】6月14日(水) 午後6:30から9:00

「持続可能な社会をめざして

～イギリスにおける住民パートナーシップの発展史～」

講師: 龍谷大学法学部 教授 白石 克孝 氏

【第3回】6月24日(土) 午後1:30から4:30

「持続可能な社会をめざして

～バックキャストするスウェーデンの事例から～」

講師: 環境問題スペシャリスト 小沢 徳太郎 氏

【第4回】6月28日(水) 午後6:30から9:00

「持続可能な社会をめざして

～イタリア都市政策・市民活動の事例から～」

講師: 京都府立大学人間環境学部 助教授 宗田 好史 氏

【第5回】7月19日(水) 午後6:30から9:00

「日本の環境首都誕生をめざして

～コンテストの醍醐味～」

講師: 環境市民 代表理事 枚本 育生 氏

ところ: 池坊短期大学 美心館 42

(京都市下京区四条室町鶏鉾町)

定員: 100人

参加費: 各回: 環境市民会員および学生 500円、非会員

700円

全回参加の割引料金 会員・学生 2000円
非会員 3000円

申し込み：お名前、電話番号、所属、会員 or 非会員、参加を希望されるセミナーの回をご記入の上、下記のメールアドレスか環境市民京都事務局まで FAX にてお申し込みください。
申込先アドレス：ecocity@kankyoshimin.org

バリアフリーの街を創ろう

— 車いすから見たまちづくりへの提案

車いすの目からまちづくりへの提案をされている在野 真麻さんを講師にお招きし、今の街や交通の問題点をお話しいたします。

今、不法駐輪や自転車のマナーの悪さが問題になっています。

自転車チームチャリ民では、これから駐輪問題に取り組んでいきます。自転車だけでなく、全ての人が移動しやすい暮らしやすい街を創るために一緒に「考動」しましょう!

と き：6月27日(火) 午後7:00から9:00
と ころ：ひと・まち交流館 京都 2階 第1会議室
講 師：在野 真麻さん (Wheelchair's Eye 代表)
参加費：無料 (カンパをお願いします)
申込み：不要
企 画：環境市民 自転車チームチャリ民

水チームの田植え

京都・伏見の農家の協力を得て田植えをします。

と き：6月4日(日) (時間未定)
と ころ：京都市伏見区
問合せ：水チーム
waterteam@mail.goo.ne.jp

未来創造塾

環境問題って、考えるほど暗くなりますね。また、環境活動も「〇〇は禁止」「□□はやめましょう」と言った我慢大会のように思っている人もあります。

一方で、様々な課題解決のための活動があり、「こんな取り組みや仕組みが広がれば、未来は明るいかも」と思えるものもあります。「未来創造塾」は、各地の様々な活動事例や先進的な制度などを紹介し、次の社会に何が必要か、希望を見つけ出すための問題提起をしていきます。

第1回「環境市民は、次の社会をつくる？ — 提案、課題解決型の環境 NGO?」

1992年に設立した環境市民は、反対運動ではなく課題解決型の活動を展開してきました。また、環境活動に熱心な人や学識者だけでなく、多くの市民、学生、事業者、自治体職員などと協力して、暮らし、経済、行政施策など、社会の様々な側面に偏りなく働きかけてきました。その環境市民が今後どのように活動を発展させていくのか、何を

目指すのか紹介します。

と き：6月10日(土) 午後1:00から4:30
と ころ：環境市民事務局

第2回「反原発でなく、脱原発のビジョン？ — エネルギー問題の明るい展望？」

原子力発電について、安全性の議論を始めると、立場によって意見がまったく違い、多くの対立を生み出します。

また「温暖化対策のためには原発は必要」という人もいます。では、原発に頼らなくても、安定的に電気が得られ、温暖化も防ぐことができないものか。ここでは脱原発に向けた様々な事例情報を提供します。

と き：7月8日(土) 午後1:00から4:30
と ころ：環境市民事務局

※第3回以降は下記のとおり。開催場所詳細については次号でお知らせします。

第7回以降は検討中。原則毎月第2土曜日の午後1:00から4:30、定例で実施します。

第3回「ごみの発生抑制と拡大生産者責任導入への課題」 と き：7月29日(土)

第4回「欧州スーパーの売り場から学ぶグリーンコンシューマーが開く未来」 と き：9月9日(土)

第5回「自然の保護と保全の違い 自然のネットワーク・残し方の基本」 と き：10月7日(土)

第6回「近自然、河川工法その他自然再生の事例・海外と国内から」 と き：11月11日(土)

講 師：堀 孝弘 (環境市民事務局長)
参加費：無料
定 員：20人 (定員になり次第締切)
申込み：必要

第5回 NPO法人環境市民 通常社員総会開催のお知らせ

NPO 法人環境市民の通常社員総会を開催します。2005年度の決算や活動の承認、2006年度の各プロジェクトの活動計画、予定も発表されます。最後は、エコな食べものを用意しての交流会を開催いたします。年に一度の会員の交流の場として、また新たに関われそうなプロジェクトさがしの場として、ぜひご参加ください。

内容 (予定) :

第1部 通常社員総会

(議題) 2005年度事業報告および決算報告の承認

2006年度事業計画および収支予算の報告など

第2部 2006年度実施プロジェクト紹介・交流会

と き：6月18日(日) 午後1:00から5:00(時間は予定)
ところ：京都市環境保全活動センター
(京エコロジーセンター)
(京都市伏見区深草池ノ内町13、
京阪電車「藤森駅」下車西へ徒歩5分)
備 考：環境市民の総会には、どなたでもご参加いただけますが、第1部の通常社員総会において表決権を有するのは会員のうち「社員」を登録した方のみです。

問合せ・申込み

環境市民・東海

【TEL/FAX】 052-521-0095
【IP電話】 050-3604-6182
【E-mail】 tokai@kankyoshimin.org

<http://www.kankyoshimin.org/tokai>

「環境デーなごや2006」協賛プロジェクト

●日本の環境首都コンテスト
先進事例 DVD 上映会

日本の環境首都コンテストの先進事例集に掲載された四つの自治体の取り組みを、DVDの映像により紹介します。DVDのテーマは「住民参画の仕組みづくりとパートナーシップ」ニセコ町(北海道)・大和市(神奈川県)・津山市(岡山市)・熊本市(熊本県)。このDVDは販売の予定はありませんので、このチャンスに是非ご覧ください。

と き：6月13日(火) 午後6:30から9:00
(午後6:00開場)

ところ：千種文化小劇場(名古屋市千種区)

参加費：無料(資料代実費)

定 員：250人

申込み：必要(お名前・連絡先を明記して、メールにて
件名を【6/13参加希望】と記載してください。)

主 催：環境市民

共 催：環境首都コンテスト全国ネットワーク

後 援：愛知県地球温暖化防止活動推進センター・
中部地方環境事務所

●ボランティア募集

- ①花と緑の幸せなまちづくり
- ②オワリ名古屋のハジメノ調査研究2006

内 容：

- ①大高緑地(名古屋市緑区)・自由ヶ丘駅前広場(名古屋市千種区)。コミュニティガーデンのガーデナーを募集します。
- ②名古屋市周辺(ご自宅・職場周辺でOK)などの雨水や環境共生住宅を調査する研究員を募集します。

参加費：無料

募集人数：若干名

備 考：学歴・年齢不問。やる気と熱意のある方。パ
ラ色の明日が待っています！ 詳細は事務局まで
お問い合わせください

環境市民 nagoya cafe

運営に関するミーティングを行います。どなたでも参加
できます。ぷちボランティアも歓迎します。お気軽にどうぞ。

と き：6月1日(木) 午後7:00から9:00

ところ：環境市民・東海 事務局

参加費：無料

申込み：必要

ぽつとらっくばーてい

毎月第三水曜日マイカップと一品を持ち寄り、楽しいひ
と時を過ごします。是非お友だち(まだ会員でない方)を
お誘いいただきご参加ください。屋下がりにお立ち寄りい
ただいてもOKです。

と き：6月21日(水) 午後7:00から9:00

ところ：環境市民・東海 事務局

参加費：無料

申込み：必要

問合せ・申込み

環境市民・滋賀

【TEL】 077-522-5837
【E-mail】 cefshiga@kankyoshimin.org

田植えの体験

琵琶湖の水質汚濁の一因は農業排水です。田植えの時期
の濁水が汚濁の原因となっています。排水を流さない方法
として不耕起栽培があり、不耕起栽培の田んぼで田植えの
体験をします。

と き：6月11日(日) 午前9:00から午後3:00頃

ところ：大津市堅田の水田

参加費：無料

集合場所：午前9:00にJR大津駅前の裁判所前集合

持ち物：弁当、飲み物(必要に応じて着替え)

服 装：田んぼに入れる服装、帽子

申込み：必要

問合せ：環境市民・滋賀

備 考：小雨決行

〈寄付のお礼〉

大和ハウス工業株式会社様から

全国の社員の皆様の善意を寄付として頂戴しました。本
会では、全国的に展開する予定の活動(モルディブへのソー
ラーパネル設置プロジェクト他)に使用したいと考えてい
ます。

西三河10JCじゃがいも様から

ゴルフチャリティの寄付金として頂戴しました。

地球の なかま

地球に暮らす生き物との出会い
センスオブワンダーで心豊かに

センスオブワンダー...

アメリカの作家であり、海洋生物学者でもあったレイチェル・カーソンが、著書「センス・オブ・ワンダー」の中で伝えた自然を感じる感性

第11回 『潮間帯』の昆虫は面白い!

文・写真 / 佐藤 綾 (琉球大学理学部助手 / 環境市民会員)

● 潮間帯の昆虫

概日誌 2冊

● 昆虫が潮汐時計をもっていた!

9冊

● マングローブ林の昆虫たち

12冊

30冊



マングローブスズ 沖縄島の大浦川にて、2006年3月撮影

※

翅
な

ミュンスター便り

～ 環境首都の現場から ～

BY AIR MAIL

← vol.6

ミュンスターの国際協力 ～ミュンスター・コーヒー～

文 / 近江 まどか

チョコレートや紅茶、コーヒーは、ドイツでもとても人気のある嗜好品である。これらの産物は自国で生産されているのではなく、南半球の国々から輸入されていることは、一般の人々の間でも十分に認識されている。また、生産者が得る利益は僅かであり、輸入業者が大半の利益を得ていることに気づいている人も多い。南北の格差がますます広がる現実に対し、ローカルレベルで行動できることはないだろうか。ミュンスターのローカル・アジェンダ 21 の中に掲げられた“Think Globally, Act Locally (地球規模に考え、地域で行動を)”という標語にもとづき、市民と企業が協力して「ミュンスター・コーヒー」が誕生した。

●ローカル・アジェンダ21から生まれたコーヒー

ミュンスター市議会は、1997年、持続可能な開発の実現に向けて、地方公共団体の行動計画「ローカル・アジェンダ 21」の策定を決議した。行政内には、ローカル・アジェンダ 21 の策定を推進するための事務局が設置され、「街の発展」、「環境・健康」、「経済・雇用」、「教育・文化」をテーマにしたワーキンググループが組織された。ワーキンググループには、環境や社会福祉、女性、外国人といったテーマに取り組む市民団体や行政担当者、政治家などが参加し、最終的に 1999 年、具体的なプロジェクトアイデアがまとめられたローカル・アジェンダ 21 を策定した。そのプロジェクトのひとつとして、南北問題に取り組む市民団体「一つの世界 (Eine Welt)」がイニシアティブをとってつくられたのが、小売店や飲食店、コーヒー豆焙煎業者が参加するパートナーシップ組織「フェアトレード：コーヒー／紅茶 (Fair Handel : Kaffee/Tee)」である。

ドイツでは、フェアトレードコーヒーや紅茶は、エコショップなどで 10 種類以上は販売され、また普通のスーパーマーケットでも購入することができる。しかし、購入者は南北問題やエコロジーに関心を持つ人が主となり、限定されているのが現状である。そこで、以前よりフェアトレード商品の販売を通じて途上国の発展に協力する活動に取り組んできた市民団体である「一つの世界」は、「ミュンスター」ブランドが付くフェアトレード商品が誕生することにより、これまで特に関心を持たなかった人々や旅行者などが、新たな購入層となるのではないかと考えたのだ。

市民団体から生まれたこのアイデアは、マーケティングなどの経験や専門知識を持つ小売店や飲食店、コーヒー豆焙煎業者といった企業の活躍によって、最初の会議から 1 年後の 1998 年、「ミュンスター・コーヒー」が完成した。

●ミュンスターでの成功、そして各地へ

フォーラムは、「ミュンスター・コーヒー」の原則を次のように定めた。

- コーヒー農家には、公正な価格による取り引きが保証される。
- コーヒーは、有機栽培によって栽培される。
- コーヒー豆焙煎業者や小売業者は、その労働力に対して公正な対価を得る。
- 消費者は、高い品質の製品を得る。

「ミュンスター・コーヒー」のコーヒー豆は、ドイツ最大のフェアトレード会社「gepa」社を通じて、メキシコの特定の農村から輸入されている。小規模な有機農園で栽培され、公正に取り引きされてミュンスターに運ばれ、そして、ミュンスター地方の焙煎工場で加工され、市内に限定して販売されている。現在の売り上げ量は、年間約 1.5t。パン屋やエコショップ、フェアトレードショップなどで、市内では各地で購入することができる。

「ミュンスター・コーヒー」は、日々の消費活動に対する「考え方を変える」ひとつのきっかけに過ぎない。しかし、ミュンスターのローカル・アジェンダ 21 において成果を挙げたプロジェクトの一つであり、生活の質、経済性、環境への配慮、社会的公正を調和させたプロジェクトといえるだろう。このプロジェクトは、地域で南北問題に取り組むプロジェクトとしてドイツ国内で高い評価を受けており、これを模倣したプロジェクトが各地で始まっており、ノルトラインヴェストファーレン州内だけでも 60 市で、市の名称を持つフェアトレードコーヒーが誕生している。日本でも、行政や市民、企業が協力して、地域の持続可能な発展に積極的に取り組んでいる事例は多い。そこに、南北問題への視点を加え、南の地域と日本の地域をフェアに結ぶフェアトレード商品（例えば「京都コーヒー」）の開発に取り組むプロジェクトは、いかがだろうか。



パッケージの表には、「無農薬で栽培され」「公正に取り引きされ」「地元で加工されている」と記載。裏には、プロジェクトの説明が記載されている。1パック250グラム、約500円。

.....
■プロフィール 近江 まどか …… 会員。堺市出身。環境をテーマにした視察・ツアーのコーディネーター兼通訳。環境首都ミュンスターでは、地球温暖化対策や自転車政策、環境教育などをテーマにした視察プログラムを実施中。
 【ドイツ環境ジャーナル <http://blog.goo.ne.jp/madokuccia/>】

みんな集まれ!

わしっわしっ ひろば

6月のテーマ:

梅雨のエコ・楽しい過ごし方

ジメジメ、ジトジトのこの季節。ただ私たちの生活や自然界に欠かすことのできない恵みの季節でもあります。こんな季節をエコに、楽しく乗りきる工夫、あなたならではの過ごし方を募集しました。

あなたと
つくる
ページです



雨の日だってお散歩!

ある自然観察会が雨だったので残念がっていたら、インストラクターの方が「雨だからきれいなものも結構あるんですよ」といわれて視点が変わりました。たしかに、植物も雨にぬれるととってもきれいですよね。花びらに水滴がついたり、土もしっとりとおちついていい感じ。雨の日もかっぱを着てお散歩♪ 京都ですと寺社のお庭もいいですよええ。(P.N. おやき)



空や川の汚れを洗い流してくれる雨

雨が降ったら、長靴をはき、レインコートかポンチョを着て、傘をさして町に出よう。特に、京都なら鴨川を歩いてみよう。何が見えるかな。鳥たちはどうしているかな、魚たちは? 川の流れはどうかな。

大雨ならもっと発見も多い。濁流が茶色くなり、ペットボトルやいろいろなものが流れてくる。川のゴミ、汚物を流してくる。大きな木も流れてくる。徐々に水位が上がる。対岸の、いつもは水の出たこない穴からもなにやら流れ込んできたようだ。近付いてみると、もっと茶色い、少し悪臭のある液体が鴨川に合流している。何やら白い紙のようなものも流れている。そんな発見もできますよ。

大雨や台風のあとの大気はきれいです。人間が汚した空を雨が洗い流してくれたのです。でも、その汚染物質は今度は河川や海、土壌を汚します。川や海、土を汚しているのは誰でしょう。(京都・雨水の会/本会理事 上田正幸さん)



カエルを見に行こう!

私が住んでいる鳥取で、梅雨といえばカエルです。何でカエルなのかと言いますと、梅雨の時期田んぼの周りにある道に大量のアマガエルが飛び出てきます。

どれくらい大量かというと、車が一台通れる程度の道に足の踏み場がないほどの密度でカエルが飛び出てきます。カエルが苦手な人にとっては悲惨な光景ですが……。

鳥取にきて6年目になりますが、毎年なんでこんなにいるんだろうと思ってしまいます。しかも一斉に大移動ですよ。どこに向かっているのやら。

一時はカエルもずいぶんと個体数が減少しているなどという話をききましたが、鳥取にいとそんな話があるのが嘘のように、梅雨時に大量のカエルをみることができます。

ちなみに雨の日でないとみられない光景なのです。しかも、実は鳥取は梅雨の時期に雨があまり降らないので、雨が降った日にあえて田んぼの周りにいかないとみられない光景です。

梅雨ははじめじめとした季節ですが、その季節にしかみられないものを見つけると、それはそれで楽しい季節になります。雨だからといって家にいるのではなく、外に出てみれば何か新しい発見があるかもしれません。(P.N. みつし)

イラスト:山形 七日

お便りコーナー



みどりのニュースレターへのご意見、ご感想を随時掲載します。

「青き星 碧い風」は、ただ単に紀行文ではなく、さすが環境市民の代表といった事柄が随所に記されている。特にスイスは観光地に自動車乗り入れ禁止地区を設け、GASTという組織もあるとか。日本とは大違いですネ。感心ばかりはしておられません。私も自動車はないので公共交通機関と最寄り駅までは4キロ足らずですが常に自転車移動しております。(環境市民会員/大久保道夫さん)

8月号のテーマは、「私のまわりのエコな生きもの」です。

募集中!

夏真っ盛りの8月。生きものたちもそれぞれの^{いのち}生命を謳歌しています。パソコンばかり見てないで、よ〜く周りを見つめてみましょう。あなたのまわりにもたくさんの生きものがあるはず。あなたにとってのエコな生きものを探してみませんか。

読者の皆さんとのコミュニケーションを通じてよりよい紙面づくりをめざしています。ニュースレターへのご意見、ご感想もドシドシお寄せください。ニュースレター編集部まで、右記の方法でお送りください。

➡ ニュースレター編集部まで、メールかFAX、郵送でお送りください

《《《 締め切り: 6月30日(金) 必着 《《《》》》

● E-mail ●
newsletter@kankyoshimin.org

● FAX ●
075-211-3531

〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル 呉波ビル3階
NPO 法人環境市民 みどりのニュースレター編集部 宛

環境市民のウェブサイトからも投稿できるようになりました!

●環境市民ウェブサイト URL <http://www.kankyoshimin.org>
《トップページ》→《ボランティアひろば》→《掲示板一覧の「みんな集まれわいわいひろば」》と順にクリックしてください。

— かんきょうしようしみんぶんのいち —

環境市民の会員を紹介します

第12回

西村仁志さん

「環境共育事務所カラーズ」代表。
環境教育のプランニングなどにかかわる。
環境市民の理事でもある。

「業一編

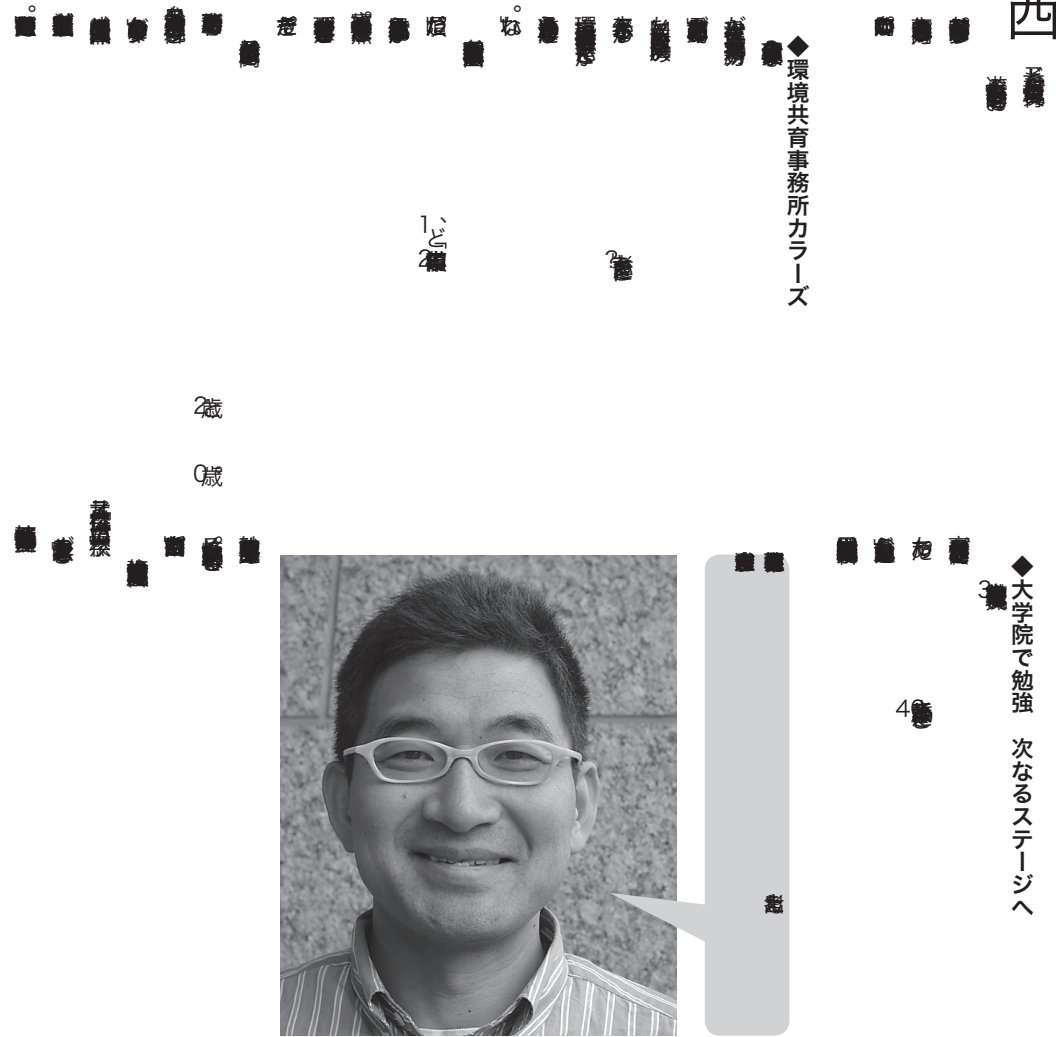
業
綴

◆大学院で勉強 次なるステージへ



◆環境共育事務所カラーズ

◆そして、もっと「根本」に向かって



編集後記

【編集部】(五十音順)

- | | | |
|--------------------|--------|--------|
| 有川 真理子 | 飯田 康道 | 風岡 宗人 |
| 久保 友美 | 鈴木 郁 | 千葉 有紀子 |
| 寺西 孝一郎 | 西田 裕紀子 | 羽野 和幸 |
| 安江 晃子 | 山形 七日 | 山田 岳 |
| 藤本 芳一 (デザイン・レイアウト) | | |

編集を終えて……

特集を担当するにあたり、ワークショップを開催し、内容をまとめる作業を担当しました。

慣れない作業に苦労しましたが、非常に勉強になりました。今回の経験を踏まえ、よりよいニュースレターにしていきたいと思います。

(ニュースレター編集部 寺西 孝一郎)

次号
予告

みどりの
ニュースレター
No.158
2006年
7月号

現在
編集中!

特集：環境市民の通常社員総会

今年も通常社員総会が6月18日に開催されます。そこで2005年度を振り返り、2006年度の環境市民が目指すものとは何かを特集します。これまでの会員数の変動のデータなども掲載して環境市民を大解剖!

今月のありがとう!

目立たないところでも、
お力を貸してくださった方々に、
感謝をこめて。
(敬称略)

5月号ニュースレターの発送

荒川 萌 / 伊藤 浩樹 / 大塚 千夏 / 木村 恵美 / 久保 浩 / 下村 委津子 / 村中 梨砂
安江 晃子 / 山形 七日 / 山田 岳 / 横井 理恵 / 吉田 文子

ご協力、ありがとうございました!

新会員の方々

4月12日～5月15日

荒川 萌 増永 滋生
植谷 正紀 村中 梨砂
佐々木 陽子
高橋 明紀代
谷川 毅
西田 愛

寄付

4月12日～5月15日

風岡 宗人 株式会社
工藤 聖子 大和ハウス工業
枚本 育生 西三河 10JC
藤岡 美栄 じゃがいも
礼埜 博子 (以上敬称略)

ありがとう
ございました!

新入会員 * INTER VIEW

■西田 愛さん (5月1日入会)

去年の夏休みに、小学生と生き物調査をしたことをきっかけに環境に興味を持ちました。環境市民では環境共育チーム SKIP での活動を中心に、子どもから大人まで、環境教育を拡げていきたいと思っております。

環境市民に入会しよう!

環境市民は、多くのボランティアと会員の皆さんの参加によって支えられています。「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ会員になって環境市民の活動を応援してください!

■ 会員特典

- 月刊会報誌「みどりのニュースレター」をお届けいたします。
- 行事などの参加費を割引させていただきます。
- 会員専用ブログ「ボランティア広場」への参加ができます。
- 環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。

■ 会費の振込み方法

- 郵便振替の振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・送金内容事項をご記入の上、「年会費+入会金」をご入金ください。
(※シニア・学生・助成・特別助成会員は入会金不要)
- ご入金を確認後、最新のニュースレターと会員バッジ、入会記念としてポストカードをお届けします。

会費

種別	年会費	入会金
個人会員	4,000円	1,000円
ペア会員	6,000円	2,000円
シニア・学生会員	3,000円	—
ファミリー会員	8,000円	2,000円
助成会員	10,000円	—
特別助成会員	50,000円	—
終身会員	一括 80,000円	—
営利法人会員*	1口 50,000円	50,000円
非営利法人会員*	1口 10,000円	2,000円

*年会費は一口以上

～あなたのご協力が環境市民を支えます～

♥ 寄付をする… 住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上、下記の振込先へお振り込みください。

会費・寄付のお振込み先 【郵便振替】口座番号：01020-7-76578 加入者名：環境市民

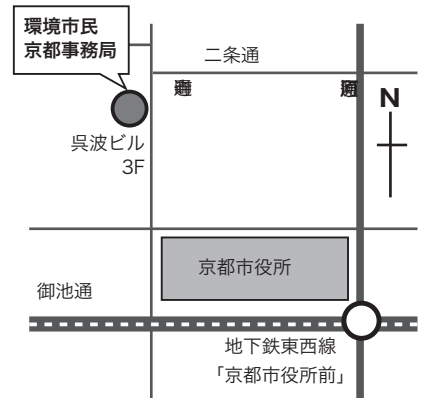
(発行) 特定非営利活動法人 環境市民 (代表) 塚本 珪一・枚本 育生 (発行人) 堀 孝弘
【TEL】075-211-3521 【IP 電話】050-3581-7492 【FAX】075-211-3531
【E-mail】life@kankyoshimin.org 【URL】http://www.kankyoshimin.org
〒604-0932 京都市中京区寺町通二条下ル呉波ビル3階 (月から金 午前10:00から午後6:00)

環境市民・東海

【TEL&FAX】052-521-0095 【IP 電話】050-3604-6182
【E-mail】tokai@kankyoshimin.org 【URL】http://www.kankyoshimin.org/tokai/
〒451-0062 愛知県名古屋市中区西花の木1丁目12-12 花の木 AOIビル4階

環境市民・滋賀

【TEL】077-522-5837 【E-mail】cefshiga@kankyoshimin.org
〒520-0046 滋賀県大津市長等2丁目9-12 笠文彦気付



本誌の無断複写・複製・転載を
禁じます。

「環境市民」
登録商標 第4809505号

この印刷物は風力発電による自然エネルギーを使用して
古紙配合率100%再生紙に、大豆油インキで印刷しました。

印刷：(有) 礼書房



環境市民

Citizens Environmental Foundation

21世紀
地球を、地域を、生活を、
持続可能な豊かさに

